

学びはいいね

このページをご覧になっている方でご存じの方もいるでしょうが、現在、私は飽きもせずに「学生」の身分（学割を使うことができる正規の学生）です。

社会人になってから、放送大学の科目履修生を含め、4度目の学生生活です。

この年になって、ちょっとした自動車1台分の学費を支払っての学生生活です。

いま、3年目ですが、1年目、2年目は銀行の教育ローンを組みました。3年目はへそくりで賄いましたが、来年度から借金返済が始まります。

さて、本題に入ります。なぜこんなことをするのか。理由は3つあります。

1つめは、大学院生なので学位取得です。これは甘くないので、ここでは言及しません。

2つめは、ライフワークにしている研究を深めることです。働きながら研究を行うことは、時間との勝負です。勤務時間が終わっての数十分、あとは土日の活用です。

そして、3つめが本文を書く目的で、それは、「出会い」です。

前回の大学院生時は、通信制でもあり、全国から、教員だけでない多くの社会人が集まり、彼らと議論交流することができました。楽しかったです。同じ教員なかまでも、他都道府県の考え方や取り組み方があり、新たな発見と共にスリリングであった。たぶん、ストレートマスターや教員の再教育のための大学院とちがった学びがあったと思う。

このような経緯で、再び、脳みそに「渴！」を入れるための新たな出会いを求め、再び通信制大学院のお世話になった。

現在の所属研究室は、教育行政学の研究室です。

指導教員の教授は、文部科学省で教育行政に携わってきた方で、現在もつくばの教職員支援機構で講師をしている方です。

ゼミは、

- ・教員から都道府県教委の職員を経て大学の教員になり、校長になったキャリアの持ち主が2人、
- ・大学の職員が1人、
- ・養護教諭から主幹教諭になり、教頭で退職し、現在カウンセラーになっている方1人、
- ・小学校教諭退職後、初任者の指導教員になっている方1人、
- ・農学博士を持つ農業高校再任用教諭が1人、
- ・オブザーバーでゼミ生を指導してくださる、ゼミ卒業生で、学校事務職員を退職し、現在大学の非常講師で学生を指導している方1人、
- ・ゼミ卒業生で、県庁人事課で若手職員を育成している若手職員が1人、

で構成され、ここに私は所属しています。

これらの方から、私のレポートに関し議論し、助言を頂きます。

唸りような指導や助言を頂ける反面、的外れな助言もありますが、参考にはなりません。

そして、何より楽しいのが、ゼミ後の飲み会です。

指導教員からは、国が行ってきた事業に関する話、そこに、国会議員と官僚とのやりとりなど、通常では聞くことができない話や、事業をつくりあげた哲学を聞くことができます。

この話し合いが楽しく、日頃の仕事で悩んでいることが、「小さく」見えてきます。

毎日、気が小さくおどおどしながら仕事をしている嶋ですが、県教委の誰もが知らないすごい話を聞かせて頂き、そんな仲間がいることを自負しながら仕事をしております。

そのための50歳超の社会人の学校における学びであります。

学びは一生続けることができる行為であり、楽しい行為であります。

私の見方からすると、小・中・高で学ぶものは、一生学ぶ基礎なのであり、点数が1点上がったかどうか、～大学に入ったかどうかは、大切なことであるが、小さなことである。



研究室前で